

平成11年度 メダカ生息調査（中間概要）

かつて身近な魚として親しまれていたメダカは、近年ではその姿を見る事も珍しくなり、平成11年2月には環境庁の指定する「絶滅のおそれのある野生生物」のレッドリストで「絶滅危惧Ⅱ類」に指定されました。

富山県内でも、いまだに多く生息する地点がある一方で、その姿が見られなくなった地域もあります。

そこで、魚津市内のメダカ生息状況を把握する目的で生息調査を行いました。また、飼育下における繁殖も試みました。

調査は平成12年の4月から行い、魚津市の広報5月号でメダカ情報を募集して、市民の皆様からいただいた数件の「メダカ情報」をもとに、市内各地でメダカを探してみました。しかし、「昔、メダカが沢山いた」という東尾崎や宮津の辺りでも、全く見られませんでした。

「メダカを見た」という情報のほとんどが、タカハヤやウグイといったコイ科魚類の稚魚でした。「昔から、これがメダカだと思っていた」という声も良く聞きましたが、全国的に小さい魚をメダカと呼ぶことは良くあることです。

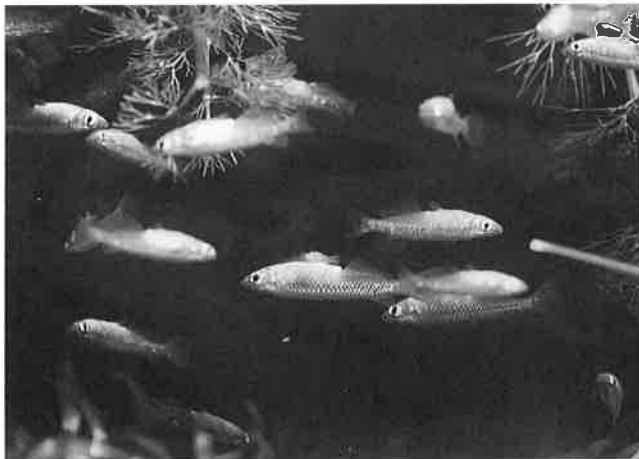
また、私自身が15年前の昭和59年に魚津市内でメダカを確認しているのので、昔の記憶を頼りにメダカのすんでいそうな場所を探して回りました。

しかし、本物のメダカはなかなか発見できず、「魚津のメダカは絶滅したのか」と思っていました。

ところが、6月に入ってから新たな情報を頂き、ついに1ヶ所だけ、野生のメダカを確認することができました。

ただ、発見された所が山の中の小さなため池なので、いつ絶滅するとも限りません。そこで、水族館に20尾を持ち帰り、繁殖に取り組んできました。

館内の水槽と屋外のタンクに分けて飼育していたところ、屋外の水槽のメダカはどんどん増えて、200尾ほどになりました。



10月に入り、寒くなってきたので、水族館の中で繁殖させることにしました。水温は25度以上、そして照明を14時間以上にセットして飼育したところ、10日目に、メスがお尻に卵塊を付けているのが確認されました。

12月末で、約400尾のメダカを飼育しています。

— 稲村 修 —